

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：令和8年3月25日

事業所名： 東部療育センター 分園すてっぷ松香台

保護者等数（児童数） 62

回収数 61

割合 98.4%

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 お子さんの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	60	1	0	0		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	61	0	0	0		
	3-1 生活空間は、お子さんにわかりやすく「構造化された環境」【注 i】になっていると思いますか。	58	2	0	1	・実際の中の様子を写真や動画以外で見たことがないため（わからない）	・実際の様子を見ていただく機会がないため写真や動画でお伝えしましたが、より詳しい説明をする事や見て頂く機会が設けられるよう検討します。
	3-2 障がいの特性に応じて、事業所の設備等は、バリアフリー化やわかりやすい情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	59	1	0	1	・実際の中の様子を写真や動画以外で見たことがないため（わからない）	・実際の様子を見ていただく機会がないため写真や動画でお伝えしましたが、より詳しい説明をする事や見て頂く機会が設けられるよう検討します。
4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていますか。また、お子さん達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	60	0	0	1			
適切な 支援の 提供	5 契約時に、運営規程、「年間カリキュラム」【注 ii】、利用者負担額等について丁寧な説明がありましたか。	60	1	0	0		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか	59	0	0	2		
	7 お子さんのことを十分理解し、お子さんと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、「児童発達支援計画」【注 iii】（年間・半期の目標、まとめ等）が作成されていると思いますか。	61	0	0	0		
	8 児童発達支援計画には、「児童発達支援ガイドライン」【注 iv】に示された支援内容からお子さんの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	61	0	0	0		
	9 「児童発達支援計画」（年間・半期の目標、まとめ等）に沿った支援が行われていると思いますか。	60	1	0	0	・曜日によって日数が違い平等性が担保されているか不安はある。	・曜日によって登園日数が違いますが、支援計画に沿って、他の曜日の保育内容と差がないように必要な内容を組み込んでいます。
	10 園の「活動プログラム」【注 v】が固定化しないよう工夫されていると思いますか。	61	0	0	0		
11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のお子さんと活動する機会がありますか。	53	2	1	4			

保護者への説明等	12	契約時に、運営規程、「年間カリキュラム」【注ii】、利用者負担額等について丁寧な説明がありましたか。	60	1	0	0		
	13	「児童発達支援計画」（年間・半期の目標、まとめ等）を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	60	1	0	0		
	14	園では、家族に対して家族支援プログラム（「ペアレント・トレーニング」【注vi】等）や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	58	1	0	2		
	15	日頃からお子さんの状況を保護者と伝え合い、お子さんの健康や発達の状況、課題について共通理解ができていると思いますか。	59	2	0	0		
	16	定期的に、保護者に対して面談や、子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	60	1	0	0		
	17	園の職員から、共感的に支援をされていると思いますか。	60	1	0	0		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がなされていますか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がなされていますか。	51	5	1	4		
	19	お子さんや家族からの相談や申入れについて、「対応の体制が整備」【注vii】されているとともに、お子さんや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	61	0	0	0		
	20	お子さんや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	60	1	0	0		
	21	定期的に、通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果がお子さんや保護者に対して発信されていますか。	59	2	0	0		
22	個人情報の取扱いに十分留意されていると思いますか。	61	0	0	0			
非常時の対応	23	園では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	61	0	0	0		
	24	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われていますか。	61	0	0	0		
	25	お子さんの安全を確保するための計画について周知される等、安全確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	60	1	0	0		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した場合、速やかな連絡や状況の詳しい説明がなされていると思いますか。	59	1	0	1		

満足度	27	おひさんは通園（通所）を楽しみにしていますか。	はい	やや楽しみにしている	どちらともいえない	いいえ	わからない	・あまり好きではないと言うが、行くのは嫌がらずに楽しそうに参加できている。 ・子ども自身の発声がないためにわからない。	・今後も療育内容をおひさんに分かりやすく楽しめるように工夫します。
			47	10	2	0	2		
	28	おひさんは安心感をもって通所されていますか。	はい	やや楽しみにしている	どちらともいえない	いいえ	わからない	・慣れる前に不安そうな様子があった。（やや安心感を持っている）	・慣れるまでに時間がかかるおひさんもおられると思いますが、わかりやすい環境や対応で全てのおひさんが安心感を持って楽しく通園できるように努めます。
			56	4	1	0	0		
	29	（総合的にみて）事業所の支援（サービス）に満足されていますか。	満足している	やや満足している	どちらともいえない	不満である	わからない		
			56	3	2	0	0		

(注釈)

- i 「本人にわかりやすく構造化された環境」は、机や本棚の位置やついたての使用などで刺激を整理し、おひさん本人がその場所で何をしたらいいかをわかりやすくする工夫です。
- ii 「年間カリキュラム」とは、事業所における総合的な支援の推進と事業所が提供する支援の見える化を図るため、事業所で行われている取組等について示し、公表することが求められています。
- iii 「児童発達支援計画」は、児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標とその達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載した計画のことで、これは、児童発達支援センターの児童発達支援管理責任者が作成します。
- iv 「児童発達ガイドライン」は、児童発達支援の提供すべき支援として、「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」を規定しています。
本人支援とは、子どもが将来、日常生活や社会生活を円滑に営めるよう「健康・生活」、「運動・感覚」、「認知・行動」、「言語・コミュニケーション」、「人間関係・社会性」の5つの領域での支援のことで、
家族支援とは、おひさんが安定して育ち、暮らしていくことを目的として、家族が安心して子育てを行うことができるよう、様々な家族の負担を軽減していくための物理的・心理的な支援を行うことです。
移行支援とは、あたなのおひさんが、お住いの周囲の一たちから理解され、家族として安心して地域参加するための支援のことで、
- v 「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことで、おひさんの特性や発達の課題等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。
- vi 「ペアレント・トレーニング」は、保護者がおひさんの行動を観察しておひさんの特性を理解したり、特性を踏まえた褒め方等の関わりのコツを学ぶことにより、おひさんが適切な行動を獲得し、保護者がポジティブな気持ちで子育てに向かうことを目標とした家族支援です。
- vii 「対応の体制の整備」は、保護者が事業所に対して、相談や「こうしてほしい」というお願いをする際に、誰に、どこにお話をすればいいか、が決まっていて、それを保護者に知らされていることも含まれています。また、対応とは、相談やお願いに対して、迅速かつ適切な対応をすることだけでなく、対応の必要がないことや対応できない事情について保護者が理解できる説明を行うことも含まれます。

事業所における自己評価結果（公表）

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点や課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が発達支援室等スペースとの関係で適切であるか	○		基準に基づいた設備となっています。集まりや机上課題活動と、自由遊びや運動課題活動の部屋を区別することで、活動しやすくしています。□□
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか	○		配置基準に基づいた職員配置を行っています。こどもの特性に応じて個別対応が必要な時に加配職員を配置しています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか	○		靴箱やロッカー等にはイラストや写真を貼り視覚的にわかりやすくしています。また、活動によりパーテーションを使用し行なうべき活動に集中できる環境を作っています。部屋の入り口の段差にはマットを敷き、危険のないようにしています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		日常の清掃や消毒に努めるとともに、使用した遊具類なども消毒し、適切に収納しています。活動内容に合わせて、室内の環境整理を行っています。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか	○		こどもの状況により必要に応じてパーテーション等でスペースを作ることや別の部屋を使用して活動できるようにしています。
業務 改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○		職員全員で療育前後に課題や個々のこどもについてPDCAサイクルによる話し合いを毎日行っています。また、年度末にも年間の振り返りを行い、次年度につないでいます。
	7	保護者等向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか	○		保護者向けアンケートを実施して、保護者の意向を把握し、業務改善に努めています。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか	○		日々、職員全員で療育後に反省会を行い意見を出し合っており業務改善に向けた話し合いと実践を行っています。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○	外部評価については現在、実施しておりません。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会を確保しているか	○		法人内研修の参加や外部研修に参加しています。研修に参加した職員の報告の時間を設け、全職員が共有できるようにしています。また、法人内の職員によるOJTにより個人の資質の向上や職員間で共通認識を持つようにしています。
	11	適切に年間カリキュラムが作成、公表されているか	○		支援プログラムを作成しホームページにて公表します。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		アセスメントと個別面談での保護者からの情報やニーズを合わせて児童発達支援ガイドラインに示された必要な支援内容を具体的に支援計画を作成しています。
	13	児童発達支援計画を作成する際は、児童発達管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか	○		こどもの支援に関わる職員全員が、個別支援会議にて児童発達支援計画の目標設定や支援内容の確認を行い、より具体的な支援の検討を行っています。
	14	児童発達支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか	○		児童発達支援計画を職員間で共有し計画に沿った具体的な支援を行い、こどもの状況に応じて見直しを行っています。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか	○		標準化されたアセスメントシートを使用し、アセスメントを行い日々の行動記録により個々のこどもの状態を把握しています。

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」、「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○	それぞれの項目のねらいや支援内容を踏まえ、こどもの状態や家族の状況に必要な項目を設定し具体的な支援内容を設定しています。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○	役割分担して立案したプログラムをもとに職員間で確認、検討し活動プログラムを作成しています。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○	季節的な内容を取り入れながら年間を通して様々な活動が経験できるように工夫しています。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか	○	こどもの状況と活動内容を考慮し、個別活動と集団活動を組み合わせながら児童発達支援計画を作成し目標達成に向けて支援を行っています。今年度は個別療育日を設け、それぞれの目標と課題も確認しました。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援しているか	○	日々、朝礼に職員全員が参加し、その日の支援内容や予想される子供の姿や配慮事項、職員の役割分担について打ち合わせと確認をしています。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○	支援終了後に職員全員で終礼に参加し、その日の振り返りや反省、今後の支援内容及び、情報の共有を行っています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○	毎日の保育日誌と全員の個人記録に細かく記録し、職員がいつでも確認できるようにし、支援方法について確認しています。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか	○	半期に一度、保護者との個別面談の中でモニタリングの上、支援計画の見直しを行っています。
関係機関や保護者との連	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか	○	必要に応じて、管理者や療育担当者、法人の担当者が対応しています。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行っているか	○	必要に応じて連携を取り合い、協力の依頼、情報を共有しながら支援を行っています。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）東都の間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○	必要に応じて並行通園をしている園の職員と連絡を取り合い、相談に応じることや情報共有し、こどもの特性や状態についての理解を促し、支援内容の共有しています。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○	利用児童が3、4歳児である為、行っていません。
	28	（28～30は、センターのみ回答） 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか		
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか		
30	（自立支援）協議会こども部会や地域のこども・子育て会議等へ積極的に参加しているか			

携	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか	○		東部療育センターと連携し、言語聴覚士や作業療法士等の専門職による学習会を実施することや専門職の療育参加、個別の相談等で助言を受けています。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のないこどもと活動する機会があるか		○	利用児童のほとんどが、幼稚園や保育園等と並行通園されている為、そのような機会は設けていません。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		年2～3回の個別面談を行っています。 単独通園クラスは、送迎の際の伝達と、連絡ノートを使って様子を伝えあっています。 親子通園クラスは、療育の説明と振り返りを毎回行っています。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか	○		定期的にクラス懇談や保育士、OT、STによる学習会を実施しています。
保護者への説明責任等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		契約時に、重要事項説明書と契約書の説明をしています。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか	○		年2～3回の個別面談の中でこどもの状況に応じた支援内容になるように意向を確認しています。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		保護者に児童発達支援計画を示して、目標や支援内容の説明を行い児童発達支援計画の同意を得ています。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		随時、相談に応じています。必要に応じて東部療育センターのケースワーカーや専門職の協力も得て行っています。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか	○		保護者会の活動はありませんが、クラス懇談会や学習会を開催することで、保護者の交流の機会を設けています。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		対応の窓口に関しては契約の時に伝え、十分に周知できるよう掲示や定期的な説明を行っています。 保護者等から相談や申入れがあった場合は、迅速かつ適切な対応を心がけ、取り組んでいます。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか	○		単独通園クラスは、毎月クラスだよりを配布しています。親子通園クラスは、登園時にその日の活動内容や次回の活動についてのお知らせを記載したレジュメを配布しています。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか	○		法人内研修を受け、日常的に個人情報の取り扱いには十分注意するよう徹底しています。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		面談や、電話相談、連絡ノートなどを通して、一人ひとりの状態に合ったコミュニケーションの方法で意思の疎通を図っています。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○		利用者のプライバシー保護等もあり、行事等は行っていませんが、隣接する九州産業大学を避難場所として、こどもたちが安心して避難できるように大学に依頼し、こちらから避難場所までの道のりを散歩コースとして利用しています。また、同大学の図書館の利用も行っています。
45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○		各マニュアルを整備しています。契約時に説明し、保護者が閲覧しやすい場所に提示しています。発生を想定した訓練や実技研修を行っています。	

非常時等の対応	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		業務継続計画を策定し非常災害を想定した避難訓練や連絡体制の確認を行っています。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○		利用開始前に、「子どもの状況表」に保護者が記入し、提出をお願いし対応の確認をしています。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		必要に応じて、医師の指示に基づいた情報を保護者と確認し、職員間で情報共有を行い、配慮、対応を行っています。また、親子通園では保護者の了承を得て他の保護者にもおやつの選定の配慮をお願いしています。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか	○		施設の危険箇所や設備に関して安全点検を定期的におこなっています。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか	○		契約時に、安全計画に基づく取り組み内容について説明し必要に応じて家族との連絡、報告を行っています。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討しているか	○		該当事例は、終礼で報告と共有を行い。業務日誌やヒヤリハット記録簿に記録し再発防止に向けた話し合いを行っています。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		管理者が、東部療育センターの虐待防止・身体拘束適正化委員会に参加し、職員会議にて内容を職員と共有しています。また、職員全員で法人内研修にも参加しています。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○		個別支援会議で検討し、必要がある際は、面談や送迎時に保護者への確認や説明を確実にし、了承を得た上で支援計画に盛り込んでいます。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

○事業所名	東部療育センター 分園すてっぷ松香台		
○保護者評価実施期間	令和7年12月1日		～ 令和7年12月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	62	(回答者数) 61
○従業者評価実施期間	令和7年11月14日		～ 令和7年11月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	少人数のグループの為、こども一人一人に応じた対応を支援計画に沿って行うことができる。理解できることや自分で出来るが増えることで、自分に自信を持ち活動することができている。	視覚的な支援により活動内容を分かりやすくすることや活動の見通しが持てるようにし安心して過ごせる環境作りを行っている。個々の理解や困り感について考慮し対策を検討、職員間で共有している。対応が難しいと感じる子についてはセンターの専門職からの助言やOJTを受けている。	職員一人一人の知識やスキルの向上のための研修を行うことや他の事業所やセンターとの情報交換等を積極的に行いたい。
2	東部療育センターの専門職との連携ができ専門的な視点で子どもを見ることや保護者の困りごとに対して対応や提案を行うことができる。(ケースワーカー、OT、ST、発達相談員、訪問支援専門員) また、情報を得ることで職員の知識やスキルの向上に繋がる。	保護者の困りごとや職員が疑問に思うこと、対応に迷うことに関して、問題に応じた専門職に積極的に相談するようにしている。保護者とも共有し家庭でできる対応を検討、提案している。	こどもの行動について様々な専門職の視点を持つことができるように職員研修やOJTを継続して行いたい。
3	こどもの特性や状態を知り、並行通園している園の職員に環境設定や関わり方について伝えることができる。また、訪問支援職員と連携し、園での困りごとに対して具体的な支援方法を考えることができる。	並行通園している園からの相談に応じられることを保護者を通して伝えてもらい園からの相談に積極的に応じている。また、訪問支援職員と訪問の前後で情報共有しより具体的な支援を検討している。	幼稚園、保育園に対して、支援内容の共有ができるように連携可能である事を周知したい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	通園頻度により支援内容の積み重ねが難しいことがある。	お子さんの目標の設定において、園とそれぞれの家庭で取り組める量や内容の共有が不十分だと考える。また、連携が取れていない幼稚園や保育園もある。	お子さんの課題や目標を共有し、家庭でもスモールステップで取り組める具体的な支援内容の検討が必要と思われる。また、それぞれの園児の在籍する保育園とは東部療育センターとも協働で連携して支援していく。
2	午後の親子通園では通園頻度が月2日としている為、療育の頻度を多く求めることや次年度の療育の確保に向けて併用する児が増えている。民間事業所との併用により支援方法にずれが生じることがある。	3歳児で通園していた児がほとんど継続して4歳児の親子通園を希望されるが、療育の頻度が低いことや、次年度(5歳児)の療育がないため、園としても必要に応じて併用を検討するように伝えている。	民間事業所の新設が増え、分園に通う児の人数が減り、安定した枠の確保が出来れば、児の状態に応じた頻度を確保できるグループを作ること(月2→週1)や年少から年長まで継続できるグループを設ける等、基本の通園と状況やニーズに合わせて療育体制を柔軟に検討したいと考えている。 センターの外来児グループを含めて分園の在り方や通園体制を検討する必要がある。4歳児の単独通園を作ることや5歳児の受け入れに向けて、東部の外来グループと共にカリキュラムや学習会の内容、就学支援に向けた準備を行う。